■令和 8 年 8 月 5 日定例記者会見内容

１日時　　令和 8 年 8 月 5 日（水）11：00～11：45

２場所　　市役所本庁舎 3 階第三委員会室

３出席者　　〇市長、副市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、市民部長、総務課長

〇酒田記者クラブ／各社

幹事社／記者・ＳＡＹ

■市長発表事項

１．第 32 回酒田市土門拳文化賞受賞者の決定について（文化政策課）

市長／酒田市土門拳文化賞は、本市出身の世界的な写真家土門拳氏の文化芸術への功績を記念するとともに、写真文化、写真芸術の振興を目的に創設されたもので、当時の土門拳記念館開館 10 周年を機に平成 6 年度から始まり、今年で 32 回目を迎えました。

去る 6 月 5 日に本市において選考委員会を開催し、資料の通り文化賞 1 作品、奨励賞 3 作品が選考され、決定いたしました。今回は、全国 29 の都道府県 103 人の皆様から 104 テーマの作品の応募があり、山形県内の方の応募は 5 人、うち酒田市は 1 人でした。選考委員の先生によれば、作品は時間をかけて被写体と向き合い、問題意識や社会性のあるテーマの探求や写真構成、そして表現力が必要とされる。今回の応募作品もレベルの高い作品が多かったとのことでございました。今後も酒田市土門拳文化賞が、写真文化、写真芸術の振興に寄与し続けていくことができればありがたいと思っています。

それでは、受賞作品をご紹介いたします。第 32 回酒田市土門拳文化賞受賞作品は「命をつなぐ　(インドネシア残留日本兵と子孫の記録)」埼玉県の長洋弘さんの作品です。選考委員の講評によれば、40 年にわたる取材撮影で探し当てた元日本兵の素朴なポートレート、そして元日本兵の亡き後も親族と交流し撮り続けることは、元日本兵の生きた証しを写真で記録、表現することに他ならず、まさしく土門拳の精神に通じる後世に残すべき戦争の記録ですと評価された作品です。

続きまして、土門拳文化賞奨励賞の受賞作品 3 点です。一点目は「認知症　―薄れゆく記憶」東京都の若松誠-impatientmei さんの作品です。2 点目は「静止した時間」静岡県の髙倉豊さんの作品です。3 点目は「Noto Not Alone」滋賀県の上田薫さんの作品です。

今後の予定ですが、授賞式を 9 月 26 日土曜日午後 2 時から土門拳写真美術館において行います。また、受賞作品展を 9 月 25 日から 10 月 12 日まで、同じく土門拳写真美術館において開催いたします。

２．酒田市事業者エネルギー価格高騰対策支援金の給付について（商工港湾課）

市長／歴史的な円安水準の進行やエネルギー価格の高騰により厳しい経営環境が続く市内事業者等の事業継続を支援することを目的に、エネルギー価格高騰対策支援金を給付いたします。

国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用して、現在、市民向けの物価高騰対

策地域商品券の配布を行っているところですが、今回発表いたしますのは、事業者向けの物価高騰支援政策ということになります。支援の概要ですが、資料にある通り、市内に事業所もしくは住所を有する法人または個人事業主であって、直近3か月、令和8年7月から9月ですが、その間にエネルギー経費の支払い実績がある事業者、そして今後も酒田市内で事業を継続する意思がある事業者、この3つを満たす事業者に対し、1事業者当たり一律5万円の支援金を給付するものでございます。11月2日の月曜日から12月25日金曜日の期間に申請受付を行い、受付したものから順次審査を行って随時支給する予定です。つまり、お待たせすることなく迅速に支給するということを心がけています。
支援金の予算額としては1億6000万円を計上し、3200件の資金支給を見込んでいます。

３．酒田南高等学校駅伝競走部の飛島合宿について（まちづくり推進課）

市長／8月17日の月曜日から21日金曜日までの5日間、県内屈指の駅伝強豪校酒田南高等学校駅伝競走部が飛島で合宿トレーニングを行います。このたびの合宿は、同校駅伝競走部の阿部監督から、熊のいない飛島で練習できないかと市に相談があり、阿部監督とともに担当課で事前に下見をしたところ、十分に実施可能であるとの評価により、実現に至ったものであります。
阿部監督の話では、まずクマがいないのが一番。そして、島内の周回コースは適度に起伏があり､1周約6キロ強ある中で信号機が全くなく車両もほとんど通らないということで、こんなに素晴らしい練習コースは滅多にない、今では考えられないほど素晴らしい環境であるという高い評価をいただきました。また阿部監督からは、練習は暑い時間帯を避け早朝と夕方に行うので、日中の空き時間を使って島民のために何かお役に立てればということで、ボランティア活動のお申し出もございました。
事前に飛島総合センターを通じて要望調査を行った結果、神社周辺の草刈りの手伝い、刈った草の運搬ですけれども、そちらと農免道路の路面と側溝および避難路の落ち葉の清掃を実施する予定となっています。それからただいまご用意いたしましたＴシャツとポスターでありますが、今回の飛島合宿に向けて部員たちの気持ちを盛り上げたり、市の関係先や島内でのＰＲを図るために、同校駅伝競走部の後援会が作成したものです。合宿の初日は、部員全員でこちらのＴシャツを着て飛島に渡るそうです。
T シャツの左肩部分には、クマがいないということで「ベアーズ」の文字が入っていますし、バックプリントにはポスターと同じデザインですが、飛島を背景に、トビシマカンゾウのイラストや「飛島を走ろう」「走った距離は裏切らない」という文字が入っています。この走った距離は裏切らないというフレーズは、アテネオリンピックの女子マラソン金メダリストの野口みずきさんの有名な言葉でございます。
この言葉に感銘を受けた酒田南高校の駅伝競走部では、この言葉を合言葉にして驚異の月間平均700キロから800キロという驚くべきキロ数を走り込み、山形県トップレベルの強さを築き上げてきました。なお、野口みずきさん本人から同校駅伝競走部のキャッチフレーズとして使用することに許可をいただいているそうでございます。

今年度は定期船飛島の故障により代船運航が今も続いていますが、先月８日には飛島が特定有人国境離島地域として追加指定されたという大変嬉しいニュースもございました。今回の酒田南高等学校駅伝競走部の取り組みも、飛島の皆様にとってとても励みになる、元気をもらえるものと思いますし、今後の飛島地域の振興に繋がっていくことを大いに期待しています。
この夏、ランナーが飛島ロードを爽やかな海風とともに駆け抜けます。報道各社の皆様、ぜひ飛島現地にて取材をいただけますと大変幸いです。

■市長発表事項に関する質問

記者／事業者支援金は、当初の条件では対象は中小企業に限り大企業は除くというものだったと思いますが、実際の対象は大企業も含めた全ての事業所になったのでしょうか。
地域創生部長／大規模中小企業、それから個人事業主を含め、燃料で影響が出ている酒田市内全ての事業者向けということで想定しています。
記者／エネルギーと一口に言いますが、いわゆる電気、ガス、ガソリンや軽油などすべてが対象でしょうか。
地域創生部長／今ご質問があったものは全て対象とさせていただきます。市内の企業、事業所は物価高騰、それからエネルギー価格の高騰でかなり幅広く影響を受けているということがございました。この事業につきましては、まず一番大事というところはスピード感でございます。これが来年、年度末ぐらいの支給では話にならないというところもありますので、できる限り早くできるということで、その辺のエネルギー関係は全て対象ということにしています。

■代表質問

１．市長の公約達成度への自己評価と次期市長選挙への姿勢について

記者／一つ目、市長の任期は来年９月に任期満了となりますが、この３年間で掲げた公約の達成度の自己評価をお願いします。また、次の次期市長選挙への向き合い方や姿勢への考えがあればお願いします。二つ目、宿泊税に対する見解についてです。山形市が導入を決め、山形県と鶴岡市が導入を検討する方向になっていますが、酒田市の宿泊税への考えをお願いします。またその考えに至った状況も追加でお願いいたします。三つ目、遊佐沖洋上風力事業で、事業者の撤退が検討される中で環境影響評価準備書の縦覧が始まりました。事業全体および事務所の内容について受け止めをお聞かせください。
市長／市長の公約達成度の自己評価と次期市長選挙への姿勢ですけれども、早いもので３年近くなりました。就任以来、酒田の様々な課題の根底にあるのは急激な人口減少であるというふうに捉えまして、人口減少できる限り抑制しながら、たとえ人口が減ったとしても、豊かに安心して暮らせることのできるまちをつくるという旗印のもとで、具体的には四つの政策の方向性というものを示して取り組みを進めてきたところであります。今回はですね、令和５年の９月就任した直後に、市長所信表明というところで述べた事柄に対す

る自己評価をお答えするという形でお答えをしたいと思います。
考えていた通りに進められてた事項といたしましては、一つ目に東北公益文科大学の公立化がございます。今年の４月１日から公立化が実現しています。二つ目は、第四中学校区の義務教育学校の整備についてです。こちらも令和７年８月に酒田市立十坂小学校およびその隣接地を整備場所として決定いたしまして、現在設置準備委員会が設立され、検討協議が進められています。三つ目として、飛島の特定有人国境離島地域への追加が考えていた通り進められたことになります。先月、国会で法律改正が可決されたところであります。
次に考えていた以上に進められた事項ですけれども、一つ目として、日本一女性が働きやすいまちの実現が挙げられると思います。えるぼし認定を受けている市内に本社を置く企業さんの数を日本一にするという目標を掲げておりまして、実際、全国一を達成することができています。当然東京都の方が多いわけですが、人口 10 万人未満の市町村の中では数は日本一ということで、昨年度には船井総研ホールディングスのサステナグロースカンパニーアワードまで受賞することができました。それから二つ目として外貨を稼ぐ観光の促進を掲げておりましたけれども、外航クルーズ船と内航クルーズ船合わせての数が今年度は過去最高となる 20 回以上ということで、予想以上の寄港になっています。経済効果も大きく出ています。三つ目として、広域行政の体制強化を挙げておりましたけれども、庄内地域の２市１町で構成する庄内広域水道企業団が今年の４月１日から業務を開始しています。これにより、水道関連施設の老朽化、人口減少に伴う料金収入の減少、技術者不足などの課題に対応しながら、将来にわたって安全安心、水道水の安定供給を継続していくことができるようになったと考えています。
最後に、考えていたほど進められなかった事項ですが、一つ目としてアランマーレ山形のホームアリーナ整備につきましては断念をしたところであります。今後はマザータウンとしての継続的な支援を行っていきたいと思います。二つ目として、学童保育所の待機児童は現在も解消することができておりません。今後は国の事業の活用の検討、それから各コミュニティセンターでの子どもの居場所作りを進めるなど、あらゆる角度からどうしたら学童保育の待機児童をなくすことができるかよく考えて進めていきたいと思います。三つ目として、陸羽西線を利用した観光客の誘客につきましても、当初から令和５年９月から陸羽西線に乗ること自体を目的とした観光誘客を図って、高校生の足を守りたいというふうに言っておりましたけれども、陸羽西線もこの１月まで止まっていたということもありまして様々な政策を打つことができなかった。そこで今、銀山温泉まで来ている外国人観光客を何とか陸羽西線に乗って庄内に来ていただくという明確な目標できましたので、これにつきましても今から挽回して進めていきたいというふうに考えています。
四つ目として、公約では防災体制の強化というふうに挙げましたけれども、2 年前の大雨災害からの復旧復興は現在も続いているところであります。
予定通り、それから予想した以上、それからうまく進められなかった点を分けて自己評価しましたが、改めて感じたことは、3 年前から言っていることは変わっていないということで、それは良かったことかなと思っています。実現できたこと、それと実現がまだでき

ていないことがもちろんありますので、実現できていないことについて、限られた人数でどうしたら実現できるか。私の動き方、あるいは職員の配置の仕方、外部機関の巻き込み方、いろいろなことをよく考えて、何とか少しでも前に進めることができるようにこれから1年間しっかり進めていきたいというのが今の私の気持ちです。

記者／2期目については現時点でどのようにお考えになっているのか教えてください。

市長／現時点では何も考えておりません。

２．宿泊税に対する見解について

市長／山形市が 2027 年度から宿泊税導入を決定したこと、山形県や鶴岡市が導入の検討を進めていることは承知しています。酒田市としても導入の必要性、それから効果について、まずは庁内の関係各課によるワーキンググループによって検討したいと考えています。先月には山形県旅館ホテル生活衛生同業組合や山形県の方と一緒に、全国に先駆けて宿泊税を導入した北海道倶知安町に担当部長が視察に参加したところです。

それも含めて庁内の検討を進め、市内の宿泊事業者等と情報共有を行いながらその後どのように進めていくか、外部関係者を交えた検討会議に進むべきかは慎重に判断したいと考えています。その考えに至った経緯ですけれども、財源の確保という点では魅力的です。酒田市においても二次交通の整備、多言語化、観光案内表示の改修など財源が必要ですし、DMO の運営経費財源としても大変魅力的ですけれども、山形市や鶴岡市との違いは両市は温泉地域を抱えていますが、酒田市はビジネスホテルが多く温泉旅館は少ないという状況ですので、導入したときの費用と成果について見極めた上で導入するかどうかを決定していきたい、今は中立な状況で検討にまず着手したというところです。

３．洋上風力発電事業および環境影響評価準備書の受けとめについて

市長／遊佐町沖洋上風力発電事業の事業全体についてどのように受けとめているかですが、個別企業の事案のため、詳細な事情までは把握しておりませんが、洋上風力発電に係る国内外の事業環境が日々変化する状況でも、遊佐町沖の事業進捗には本市の企業も強い関心を示していますので、酒田港の基地港湾整備への影響の有無なども含め、今後の動向を注視していきたいと考えています。

そして環境影響評価準備書の内容の受け止めですけれども、この準備書は事業者が環境影響評価方法書に基づき環境アセスメントを行い、検討した結果を踏まえて事業者が作成したものでして、縦覧終了後には県から市に意見照会があり、市から県へ環境の保全の見地からの意見書を提出するものとなっています。8月7日には酒田市で住民説明会が予定されていますので、市民の皆さんにもぜひご参加いただいて、工事中や事業開始後に行われる調査について不足している事項、あるいは多いと思われる事項など、意見を伝えていただければと思います。住民説明会は遊佐町でも8月8日に予定されています。

そして本市や遊佐町各所において、準備書が 8 月 31 日まで公表されていますので、ご覧いただき、意見を市民の皆様から提出していただければと思います。そしてその後に作成

される環境影響評価、影響評価書がよりよいものになることを期待しているところです。
記者／洋上風力について、市長のお考えをお聞かせください。
市長／遊佐町沖の洋上風力発電事業ですので、今後の動向を注視しているということです。
記者／酒田市沖の調査が行われていますが、調査の情報は事業者からも市からも情報をいただけず、遊佐町のホームページで知り報道しました。情報公開が足りていないと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。
市長／今回のことを遊佐町がホームページに掲載した経緯まではわかりませんが、注意喚起を目的としたものということでした。酒田市では調査実施者から山形県漁業協同組合や港湾利用者、それから関係者に作業進捗や位置などの情報提供が行われているため、特に酒田市で何かはしていなかったということです。ただし、今のようなご意見もいただいたということで、山形県ともう一度どうするか検討したいと考えています。
記者／遊佐町がしたことを酒田市ができなかったことについてのお考えは。
市長／本調査を行うことは、令和 6 年 12 月に開催された第 5 回の酒田沿岸域検討部会の公表資料においてもすでに公表されています。そして関係者にはきちんと情報提供を行っていましたので、十分に情報は公表していると考えておりました。
記者／情報の公開の量と質の見解に差があったことがわかりました。小さな積み上げで情報を皆さんにお知らせすることが不安を取り除くことになると思います。

■フリー質問

１．陸羽西線のダイヤのバス転換について

記者／先月 30 日に新庄市内で鉄道の沿線活性化の会議があり、ＪＲ側から陸羽西線のダイヤの一部をバス転換する案について説明がありました。改めてＪＲ側からどのような提案が今現在あるのかを教えてください。また市長としての受け止めも教えてください。
市長／ＪＲからはダイヤ改正に関して正式な通知や決定事項として示された事実はありませんけれども、事務方とＪＲが利用促進や利用状況等について意見交換する中では、減便およびバス運行という案が出たということは聞いています。その上で、その案が出たことは本当に残念に思います。私自身、陸羽西線は本当に素晴らしい鉄道だと思っておりまして、初めて陸羽西線に乗ったときの感激は忘れることができません。こんなに景色の良いローカル電車、秋はあんなに紅葉の素晴らしい鉄道はないと思いますし、冬も水墨画の世界で素晴らしい。春になって新芽が出てくる。本当に観光客の方にも気に入っていただける路線だと思っていますので、今銀山温泉まで来ている外国人観光客を陸羽西線の景色を楽しんでいただきながら庄内に連れてくることを利用促進策として考えていた矢先の報道で､本当に非常に残念ですし困惑しています｡ＪＲで今キャンペーンをやっていますし、また来年の秋にもやると発表しています。庄内地域に加えて戸沢村、それから村上市を合わせたエリアでやる。戸沢村が入っていますから陸羽西線も入っているわけで、そのような中で昼間の観光客が一番利用するところ時間帯の案が出てくるのかが私は不思議で仕方がない。今申し上げましたように、とにかく利用者が増えなければいけないので、私とし

ては地元の足、車を運転できない高校生や高齢者がいますので、何とかその足を守っていけるように一緒に観光戦略をやっていきましょうということを、事務レベルの意見交換で伝えたいと思います。今は「しあわせ鳥みんぐ」と定期船のキャンペーンをやっており、ミライニに展示をしています。そのチラシを見ると酒田駅には陸羽西線を通って来ると書いてあるんですね。東京駅からのアクセスは山形新幹線－陸羽西線－酒田と書いてあるので、もっと一緒にしてやっていきたい。そういう中でどうしてそういう案が出てきたのかは非常に当惑しています。

記者／市長の立場はバス運行やむなしではなく、鉄道としての運行を維持してほしいという立場ということでよろしいでしょうか。

市長／もちろんです。道路と同じで繋がっていなければ鉄道も意味がないのではないでしょうか。鉄道で残していただきたいですし、また山形県にとっても陸羽西線はとても大事だと思っています。県庁所在地と県内第 2、第 3 の都市である鶴岡酒田が鉄道で結ばれてない県は他にあるでしょうか。まだ廃止になるわけではもちろんありませんが、県の一体性という意味から言っても非常に違和感があります。しかし利用者が少なければ当然そうなりますので、残すために私達もさらに努力をしていきますので、一緒にぜひやっていきませんかということを早くＪＲに伝えたいです。

２．人口減少への対応について

記者／次期市長選への対応への説明の中で想定以上に実現できたこととして、えるぼしの認定が人口 10 万人の都市では日本一になったことを挙げていましたが、実際には酒田市の人口は急激に減っているという現実があります。えるぼしの認定数が日本一多いことについても、本来は人口減少のスピードを少しでも遅くするということが前提にあってのお話だったと思います。人口が減っていることへの見解を教えてください。

市長／私も、えるぼし企業の数が日本一なのに人口減少、特に若い方や女性の方の減少がまだ緩やかになったと断言はできないと思っています。いろいろな原因もあると思いますけれども、やはりえるぼし企業が 11 社といっても、まだ酒田市内の企業全体に比べればほんの少しだと思いますので、もっと横展開をしていく必要があるということで、昨年度から取り組んでいますのがもう女性だけじゃないんだと。当たり前ですが若者女性に選ばれる酒田にしたい。前総理大臣のときの国の政策に酒田市も乗りまして、今はえるぼしだけでなく、くるみんやユースエール、それから健康経営優良法人など、何でもいいのでとにかく働きやすい職場を増やしていく、市内の企業にはどれか必ず一つ取ってもらいたいという程に強力に横展開をしていく必要があると考えています。おっしゃる通り、最上位の目標への成果はまだ出ておりませんので、強力に進めていくことが必要と思っています。

■その他

配布資料「庄内広域水道用水供給事業と庄内広域水道企業団水道事業所の垂直統合垂直統合に係る覚書の締結について」あり

以　上